



鹿児島縄文講演会



講演テーマ 『上野原遺跡と南九州の縄文文化』

南九州の縄文文化とは、“日本の縄文文化”の枠内では特異な文化なのか、それとも先進的な文化なのか。上野原遺跡の全貌を検証し、明らかにします。

平成 24 年 5 月 12 日 (土)

開演 15 時 15 分～16 時 30 分

会場：上野原縄文の森 1F 多目的ルーム

〒899-4318 鹿児島市国分上野原縄文の森1番1号

TEL:0995-48-5701 FAX:0995-48-5704

講師 新東晃一先生 (南九州縄文研究会代表)

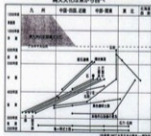


しんとう・こういち

南九州縄文研究会代表。1947年伊佐市生まれ。岡山理科大学卒。鹿児島県教育庁文化財課、県歴史資料センター黎明館、県立埋蔵文化財センターを経て定年退職。文学博士。火山灰考古学を研究。著書として「南九州に栄えた縄文文化 上野原遺跡」など。鹿児島市在住。

■新東先生から一言■ 「東日本の縄文文化は遺跡分布密度の濃厚さ、遺跡の規模、遺物の種類・質・量においても西日本をしのいでいる。縄文文化を特色づける数々の要素が東日本に早く出現しており、これは東から西へ文化が伝えられていることを意味している」と考古学者の故佐原真氏は言う。これに対し、文化人類学者の西田正規氏は「東日本に縄文遺跡が多く分布するのは、正確には「発見された遺跡」の密度の問題にすぎず、東日本では遺跡が遠く埋まっているのに対して西日本では深く埋まっているという事情が「見せかけ」の東日本優勢の状況をつくりだしている」と反論している。最近発見された上野原遺跡や南九州の発掘調査の成果では、草創期から早期に拡大した照葉樹林帯の中に南九州の先駆的な先進文化がいち早く出現したことがわかってきた。

縄文文化は東から西へ



西日本をしのいでいる。縄文文化を特色づける数々の要素が東日本に早く出現しており、これは東から西へ文化が伝えられていることを意味している」と考古学者の故佐原真氏は言う。これに対し、文化人類学者の西田正規氏は「東日本に縄文遺跡が多く分布するのは、正確には「発見された遺跡」の密度の問題にすぎず、東日本では遺跡が遠く埋まっているのに対して西日本では深く埋まっているという事情が「見せかけ」の東日本優勢の状況をつくりだしている」と反論している。最近発見された上野原遺跡や南九州の発掘調査の成果では、草創期から早期に拡大した照葉樹林帯の中に南九州の先駆的な先進文化がいち早く出現したことがわかってきた。

真相はいかに？当日、上野原遺跡から全てを検証していきましょう。

◎参加費無料

直接会場にお越し下さい。お待ちしております。

NPO 法人国際縄文学協会 主催

東京都港区西新橋 1-17-15 北村ビル 2 階

TEL: 03-3591-7070 FAX: 03-35917075

Email: ijc@jomon.or.jp 9:00~17:00(土・日・祝日)